

来週の市場とレート予想

	12/11(月)	12/12(火)	12/13(水)	12/14(木)	12/15(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	△1,200	△2,000	△2,000	△3,000	△3,000
財政他	△12,100	+1,000	トシ	+2,000	+52,000
資金需給	△13,300	△1,000	△2,000	△1,000	+49,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還 (3M・6M) 10年物価連動国債償還		源泉税揚げ		年金定時払い 国債発行・償還(2年)
オペ期日	共通担保(全店) △2,200 CP等買入 △300 国債補充供給 +400				貸出増加支援 -5,900
オペスタート	共通担保(全店) +3,000 ETF買入 +400 CP等買入 +4,000	国債買入 +8,400 国庫短期証券 +12,500			
(日本)		企業物価指数(11月) 営業毎旬報告(12月10日現在) 保有する国債の銘柄別残高 国庫短期証券の銘柄別買入高			
(海外)	欧 EU外相理事会	米 FOMC(13日まで) 米 生産者物価指数(11月) 米 財政収支(11月)	米 FOMC声明発表 イエレンFRB議長記者会見 米 消費者物価指数(11月)	米 新規失業保険申請件数 (前週分) 米 小売売上高(11月) 欧 EU首脳会議(15日まで)	米 NY連銀製造業景況指数 (12月) 米 鉱工業生産(11月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.025 ~ 0.000
SPOT 2M	△0.025 ~ 0.010
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初、税・保険揚げを主因として前週末比7兆8,000億円減少の356兆5,100億円が始まった。その後、同残高は短国・国債買入オペを主因に増加し、週末には359兆5,600億円となった。

無担保コールON物は、週央から週末にかけて、幅広い業態で調達意欲が強まる展開となった。加重平均金利は、4日△0.052%、5日△0.05%と推移した後、6日には証券業態の試し取りがあり、+0.001%での出合も見られたことで△0.034%を付けた。その後は7日△0.043%、8日△0.038%となり越週した。ターム物は、1~2W物で△0.04%~△0.03%の取引が見られた。

来週は、国内では日銀短観(15日)、海外では、FOMC(12-13日)、ECB定例理事会(14日)などが予定されている。

<CP>

今週の入札発行総額は約9,100億円で、週間償還額の約4,300億円(金融機関・ABCP除く)を大きく上回った。連日、商社やその他金融等からまとまった金額の発行があり、週間を通じ活況となった。週末の発行残高は17兆2,265億円と、2016年2月26日以来(17兆378億円)、久しぶりに17兆円を上回る結果となっている。発行レートは、ほぼ横這い推移で浅いマイナスから0%近辺での出合いであった。6日オファーのCP等買入オペ(4,000億円、12/11スタート)は、按分レートが△0.002%と、オファー額の増額の影響か前回比で小幅低下した。

来週の償還額は、7,200億円程度となっている。5・10日発行や賞与資金手当て等の発行が重なり、引き続き発行市場は活況と思われる。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続き浅いマイナスから0%近辺での出合いであろう。現先レートは、△0.100%~0%程度の出合いで、横這い圏内での推移を予想。14日に、CP等買入オペ(4,000億円程度)がオファーされる予定。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.250 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<TDB>

6日に行われた国庫短期証券6M第725回債の入札は、最高落札レート△0.1382%(前回債△0.2276%)、平均落札レート△0.1442%(同△0.2376%)と前回からマイナス幅が大きく縮小した。7日に行われた3M第726回債の入札も前回から利回りを切り上げ、最高落札レート△0.1414%(前回債△0.1712%)、平均落札レート△0.1522%(同△0.1995%)となった。

週末のセカンダリー市場は、入札水準からレートを切り下げ、3Mが△0.165%、6Mが△0.175~△0.170%の出合が見られた。

<レポ>

足許GCは週初△0.085%近辺から始まり、週後半にかけてレートは上昇方向。TDB3M・6Mの発行日である11日受渡しは△0.05%台で多く取引された。週末には国庫短期証券・国債買入れオペがオファーされ、△0.06%~△0.065%に小幅低下し越週した。

SC取引では10年348回債のbidが多く、週前半は△0.10%台半ばの出合であったが、6日の国債買入れオペ後△0.50%台半ば~後半で一部取引された。また5年133回債も週末にレートが低下。△0.50%台の出合が多く見られた。その他2年380・381・382回債、5年131・132回債、10年336・338・340・342・344・345・346・347回債、20年161・162回債、30年55・56回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。